



# 診断ふくい

第34号

【発行】一般社団法人 福井県中小企業診断士協会 会長 津田 均

〒910-0296 坂井市丸岡町熊堂 3-7-1-16 福井県産業情報センタービル内 TEL 0776-67-7447 FAX 0776-67-7429

ホームページ <http://www.sindan-fukui.jp/> Eメール [info@sindan-fukui.jp](mailto:info@sindan-fukui.jp)

【発行日 令和2年1月】

## 今年もよろしくお願ひ致します

あけましておめでとうございます。

元号が“令和”と改まり、2年目を迎えました。今年はどうのような年になるのかと楽しみにしているところです。



会長 津田 均

“北陸新幹線開業に向けて”というテーマで、残り3年半の間で何ができるのかを考えるシンポジウムを開催させていただき、藻谷先生の基調講演とパネルディスカッションを行いました。おかげさまで120名あまりの人たちに集まってもらうことができました。参加していただいた方々に改めて感謝申し上げます。

講演の中で、藻谷先生が言われていたのは、全体として国内客が増加するわけではなく、インバウンドの増加と東京から来られるお客様の比率が増えるという話でした。新しいお客様に対する対策は今から準備し間に合わせたいものです。また入込客数ではなく、宿泊者数をカウントしてどれだけ増加させられるかを検討すべきということでした。

先日、年稿博物館、レインボーライン、佐久間艇長記念館に行ってきました。ガイドさんや関係者の方々に詳しく説明をしていただいたので、以前来た時とは全く違う印象を受けました。受けとれる情報の内容、質、量が違います。来た甲斐があった、感動したと一緒にいった人たちが話していました。このように感動するサービスをいかに提供していくかが課題です。感動がリピーターを生み出すことで、観光客、宿泊者の増加を目指していきたいものです。

## 令和元年度 地方創生シンポジウム 「北陸新幹線福井開業に向けて ～3年半でやるべきこと～」

### <事業企画委員会>

令和最初の地方創生シンポジウムは11月15日(金)に福井商工会議所ビルコンベンションホールで開催しました。

今年のテーマは「3年半でやるべきこと／観光の産業化に向けた具体的なアクション提案」です。当協会がこの10年以上テーマに掲げている「観光の産業化」の視点から福井県にとって最大のチャンスとなる「北陸新幹線福井開業敦賀延伸」まで3年半を切り、時間は残り少なくなってきました。



観光客の誘客⇒観光客による商品・サービスの購入⇒地域へのお金の還流⇒「観光の産業化」⇒地域の雇用創出・活性化という流れを創っていく為に、どのような視点で、何をターゲットに、どのようなアクションを行っていくかまで落とし込んでいくきっかけ、気づきになる機会を設けることで、福井県の観光関係者（民間事業者、行政、支援機関や金融機関等）はどのような準備を進めていくべきかを具体的に考えて頂くことを狙いとしました。

基調講演では、「観光立国の正体」「デフレの正

体」等のベストセラーの著者で、福井県にもなじみの深い藻谷浩介氏（㈱日本総合研究所 主席研究員）に「観光の産業化に向けて“福井”がすぐやるべきこと」と題してお話しいただきました。

藻谷先生は「“イメージ”や“空気”は事実と違う」ということを各種のデータを示して参加者に目から鱗の気づきを与えてくれました。

結論として「新幹線が来ても日本人の宿泊観光客は増えない」「外国人観光客は新幹線に関係なく増える」ということを示され、福井がすぐやるべきこととして「日本人客の客単価を上げる」「外国人観光客を増やす」を提言いただきました。

第二部のパネルディスカッションでは、当協会の竹内邦夫理事のコーディネートにより、まず、福井県立大学の江川講師より「北陸新幹線敦賀延伸で福井はこう変わる」というテーマでお話しいただき「関東からのJR利用客が増える」「インバウンドが増える」ことを、データを基にお示しいただきました。

それを受けて、福井駅前の準備状況をまちづくり福井㈱の岩崎社長、あわら温泉としての取組みの方向性を㈱グランディア芳泉の山口専務、二次交通強化の課題をえちぜん鉄道㈱の佐々木部長より、それぞれ解説していただきました。

基調講演とパネルディスカッションにより「新幹線が来ても日本人の宿泊客は増えない」「日本人の日帰り客は増える」「インバウンドは頑張れば増える」ということが明確に示されました。それを念頭に福井は具体的なアクションを加速させなければなりません。約120名と定員を超えてご参集いただいた行政や支援機関という観光まちづくりの中心となる皆様にも大きな刺激、ヒントとなるシンポジウムになりました。

今後も福井県中小企業診断士協会は「観光の産業化」のシンクタンクとして、明確になった課題解決のサポートを精一杯行わせていただきたいと思います。

# 委員会活動報告

## ◆事業推進委員会

委員長 竹内 真一



上半期は、行政・金融機関・支援機関・企業等の定期的な訪問により、関連機関等の悩み・問題点を把握し、これを解決する企画を提案する「ソリューション

営業」を展開しました。

その結果、関連機関等から様々なご依頼を受け、会の総力を挙げてチーム支援や計画策定を現在も実施中です。また、会員各位の更なるレベルアップを図る「事例検討会」には多くの会員が参加し、それぞれの経験や専門分野を活用した意見・アドバイス・ディスカッションが行われ、着実にレベルアップが図られています。

各方面からは、「専門の異なる複数の診断士に関わってもらうことで、安心感や期待感がある」、「同時にいろいろな角度からの意見が聞けてスピード感がある」という意見をいただいております。今後は、多彩な専門分野・得意分野を有する中小企業診断士が所属し、豊富な事例とノウハウを有する「福井県中小企業診断士協会」の総力を結集し、様々な問題を解決していきたいと思っております。

## ◆実務講習・養成塾

藤野 恵子



12月の養成塾開講に先立ち、11月9日に養成塾オリエンテーションを行い、11名のご参加をいただきました。今年は、東京オリンピック開催に伴い、中小企業診断士本試験が例年よ

り1カ月程度早まります。それに合わせ、開講もひと月早めております。

津田会長からは福井県中小企業診断士協会のビジョンの紹介があり、色々な所から信用され、必要とされる中小企業診断士を増やしていきたいとお話がありました。

また、天田会員からはカリキュラムとともに、試験対策は客観的データに基づく情報戦であることなどの説明がありました。参加者の皆様からも質問が飛び交い、試験合格に向けて熱気が立ち上がるオリエンテーションとなりました。

養成塾では、今後も随時、受講者の募集を行っています。ご希望の方のお問合せをお待ちしています。

また、本年度も、商工会議所・商工会の経営指導員向け実務講習（旧見習研修）の受託を行い、今後も充実した内容を目指していきたいと思っております。

## ◆創業支援委員会

委員長 谷川 俊太郎



診断士協会では上半期、福井県信用保証協会の創業セミナーに中小企業診断士の中からテーマに沿った診断士を選抜し、創業セミナーの講師をさせて頂きました。

また、女性向けの創業セミナーへの講師を選ばせて頂きました。多様な診断士の中から最適な人選をすることが大切だと思っています。

診断士協会には様々な得意分野を持つ人がいます。創業は多様なテーマの知識が必要な分野。その多様な診断士の中から、最適な人選を行い、支援することが可能です。セミナーでも9割以上の方から高評価を得ております。創業支援が必要な際は是非とも当協会にお声がけください。

## ◆実務従事研修委員会

委員長 谷川 俊太郎

本年度より、中小企業診断士の資格更新に必要なコンサルティングの実務の要件を満たせる、実務従事研修を実施するために、コンサルティング先を探すなどの活動を行ってまいりました。

中小企業診断士資格の更新には、実務に従事することが必須ですが、企業内で働かれている方など、なかなか対応できない方も多いです。そのような方にも実務の経験を得て頂けるような環境を準備してまいります。

## ◆事業承継研究会

委員長 竹川 充



当協会では、地域経済の下支えとなる事業承継を支援するため、2019年1月より「事業承継研究会」を立ち上げ、事業承継支援のプロを育てるため毎月勉強会を行っています。

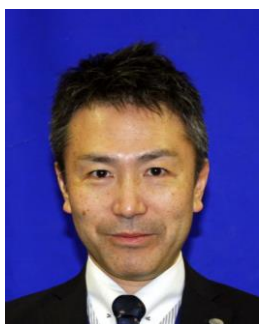
事業承継のために重要な経営課題の設定や、事例研究、税務・法務等の知識など中小企業診断士として支援するための知識やスキルについて情報交換しています。法務については、司法書士を招いて勉強会を実施しました。今年は主に「後継者教育」をテーマとして取り扱っていきたいと思います。

事業承継支援のプロとして、福井県信用保証協会や福井県事業承継ネットワーク、福井県事業引継ぎ支援センターなどから専門家派遣を受託します。また、事業承継には税務や法務の知識も必要であることから、税理士や司法書士など他の士業と連携するとともに他士業の方々を講師に招いた勉強会を開催しました。3月の例会は金融機関や支援機関へも公開し、研究会メンバーが講師をつとめるオープン例会を行う予定です。



## ◆総務委員会

### 委員長 川端 利一



「地方創生シンポジウム」の来場者を対象に、中小企業診断士の認知度をお聞きしました。「業務内容を理解している」方の割合は、本来業務の「経営診断・コンサル業務」はもち

ろんですが、「経営計画・資金計画作成支援」や「起業・創業支援」、「販路開拓・商品開発」、近年、国も支援に力を入れている「事業承継、M&A 支援」で高くなっています。また、「経営革新や補助金申請支援」は、実際に「活用したことがある」方が多くみられました。一方で診断士業務としてまだまだ認知されていない分野もあり、「街づくり・観光ビジョンづくり提言」もそのひとつです。

当協会は、経営理念等で、“行政・支援機関との協働による地方創生”を掲げています。様々な専門分野を有するメンバーで、福井らしい、まち、観光、企業づくりに貢献していきます。ぜひ、診断士協会にお声がけください。

## ◆例会・広報委員会

### 委員長 上條 辰徳



例会は、4月「観光産業化研究会」「インドネシア視察研修」報告、6月「宿泊マネジメントゲーム」（あわら温泉）、7月「診断士が知っておくべき」広告のいろは」、8月「福井県

経済の現状と今後の課題」、10月「越前市体験視察で『伝統的工芸・地域産品』を体験・再発見」（越前市日帰り）を開催しました。のべ74名の会員が参加し、講師・ゲストとして協会外からも多くの方が

参加され、研鑽・交流することができました。

広報は、6月「診断ふくい33号」発行、協会HPの随時掲載（例会・理論政策更新研修・養成塾・国内視察研修等）により更新性を維持して参りました。

今年度下期も継続して、会員の研鑽、対外的な情報発信に努めますので、ぜひ、協会HPにご注目ください。

## ◆資格更新委員会

### 委員長 北島 宏樹



今年度開催しました理論研修についての詳細です。

【理論政策更新研修事業】

日時 令和元年 9月 7日  
(土) 8:50~13:00

会場 福井県産業情報センタービルマルチホール

### 研修内容

#### ◆新しい中小企業施策について

福井県における中小企業振興施策

福井県産業労働部 副部長 小浦克之氏

#### ◆事例研究

中小業企業のIT利活用支援1「残業時間低減事例に学ぶRPA」

(株)イープラス システム運用グループ

データマーケティングTL 辰巳優介氏

中小業企業のIT利活用支援2

「伊勢の老舗食堂“ゑびや”が先端テクノロジー提供企業「EBILAB」へ変貌」

(株)EBILAB 最高戦略責任者 常盤木龍治氏

#### ◆中小企業の新事業展開支援

中小業企業のIT利活用支援3 「『ものづくり』から『ことづくり』への挑戦」

(株)下村漆器店 代表取締役社長 下村昭夫氏

今年度も皆様のご協力のもと充実した研修となりました。ありがとうございます。来年度のテーマについて随時募集しております。ご意見いただけますと幸いです。

## ◆会員研修・視察委員会

委員長 吉田 裕晃



北陸新幹線敦賀開業に向け、県内観光受入体制や情報発信等の見直しが必要となっている中、8月31日～9月1日に門司港、大分、湯布院、日田方面への視察会を実施し、港、鉄道、

駅や街並みを活かしたまちづくり事例を視察、大分訪問に際しては大分県中小企業診断士協会との交流会を開催しました。また11月28日には「ビジネスモデルキャンパスの活用」をテーマにスキルアップ研修会を開催し、20名が参加。事業戦略を検討する上で役立つ支援ツールの活用方法についてポイントを学びました。

当委員会では診断士に求められる時代のニーズに素早く応えられるよう常に自己研鑽の場を設けてレベルアップを図り、地域の中小企業を強力にバックアップしています。

## 協会活動のご紹介

### 令和元年度理論政策更新研修の開催

#### <資格更新委員会・9月>

令和1年度理論政策更新研修は、9月7日(土) 9:00～13:00に、福井県産業情報センタービルマルチホールにて、106名の受講者のもと開催しました。

#### 【研修内容】

#### 1. 「福井県の中小企業振興施策について」

福井県産業労働部副部長 小浦克之氏

福井県の中小企業振興施策が紹介されました。2019年3月に「福井県経済新戦略」が策定されたが、特に「ものづくり革命」「オープンイノベーション」「観光の産業化」「企業価値・製品価値を高めるブランディング」「人材確保・育成」などの戦略の概要を強調されておりました。県内製造業の特徴としては、最終製品と比べ、部品・中間財の生産が多く、何を造っているかという消費者の認知度が低い事、

学生の企業に対する認知度は極めて低く、新卒採用に苦勞しているなどの例をあげ、ブランディングの必要性を指摘頂きました。また、IoT・AIの普及促進事業については、AI・ビジネスオープンラボの開設や、補助金・IoT専門家派遣事業の紹介がなされました。



#### 2. 「中小企業のIT利活用支援」

##### 事例①「残業時間低減事例に学ぶRPA」

㈱イープラス データマーケティングチームリーダー 辰巳優介氏

RPAについて、分かりやすい解説を頂きました。RPAが特に最近注目されるようになった背景には「働き方改革」などで従業員に残業をさせられなくなった事が大きいとの事。また、全てをRPAでやる必要はなく、1つの作業から小さく進めて、試行錯誤を素早く繰り返すことで、年間6,500時間の削減ができた等の事例を紹介頂きました。導入に当たってはRPAに向いている作業と、向いていない作業があり、ルールと手順が決まっている定型作業・大量の作業・反復作業などが向いている業務であるとの事(例:野球球団試合全てのチケット販売をRPAで実施)。向いていない業務としては、情報に曖昧さがあり人がカバーしている業務、エンドユーザーに直接的な影響のある業務などがあり、見極めが必要であるとの事でした。

##### 事例②「伊勢の老舗食堂“ゑびや”が先端テクノロジー提供企業『EBILAB』へ変貌」

㈱EBILAB 最高戦略責任者 常盤木龍治氏

150年間伊勢で飲食店をしてきた「ゑびや」が、いかにEBILABというシステム部門を分社化するま

でになったかを熱く語って頂きました。

6年前に小田島春樹社長が経営を引き継いでから、まずExcelデータベースを作成する所から、機械学習による来客予想に着手、画像解析AIデータ収集・RPAの導入などによる再建経緯をお話し頂きました。来客予測的中率99%に→廃棄ロス1/4に減少したとの事。更には店頭訴求の効果検証(性別・表情・年齢に分解)し、客単価を3倍・売上高を約5倍に伸ばさせ、従業員の待遇も改善させることができた。このシステムは小さな飲食店でも簡単に扱えるものであり、講師の信念は「システムインテグレーター」という言葉が無くなることであると強調されていました。

### 事例③『ものづくり』から『ことづくり』への挑戦 (株)下村漆器店 代表取締役社長 下村昭夫氏

IH自動加熱調理システムの開発について、今日に至るまでの「ものづくり」から「ことづくり」への転換のお話を頂きました。病院や福祉施設・旅館などは人件費削減や食中毒防止などの課題を抱えており、当初、大学などと連携してIH対応の超耐久性食器を開発し、大学病院等に採用されたとの事。しかし、2006年適時適温特別管理加算制度廃止以降、途端に行き詰ることとなる。そこで、個別食器に事前に生食材を盛り付けトレイごと保管、必要な時にタイマーで自動加熱調理するカートクックシステムを開発。更に、食材加工会社や給食運営経験者などの協力を得て朝昼晩1か月の献立を開発し、誰でもできるように、マニュアルや献立ごとの加熱プログラムも開発するという、「新しいビジネス」への挑戦のご報告を頂きました。また終了後試食も行いましたが、どれも美味しいものでありました。

## 港・鉄道を活かしたまちづくり 九州視察実施

### 〈会員研修・視察委員会、観光産業化研究会〉

当協会では、毎年、国内で多くの観光客を集める地域を訪問する調査事業を実施しており、8月31日、9月1日の2日間で福岡県の門司港、大分県の湯布院、日田を10名で訪問しました。

## 外国航路の玄関口となった「門司港」

明治期より外国航路の最後の給水や補給基地として活用された門司港には、多くの歴史を伝える建物や施設が集められています。



門司港の象徴となっているJR門司港駅は重要文化財に登録され、今年の3月に改修工事を終了して、建設当時の姿を再現しています。

当日、ガイドをしていただいた林さんのお話しによると、門司港地区にある赤レンガ造りの建物はほとんど耐震補強なども含め改修や移築されていて、「旧門司税関」も約12億円かかっているし、「旧門司三井倶楽部」も移築改修に約30億円かかるなど、歴史的な資産を活かした観光に向けて大きな予算を投入整備し、ほとんどの施設を無料開放するなど多くの市民や観光客が訪問しやすいよう配慮しているとのこと。

単にあるものを活かすというだけでなく、お金をかけて整備し、観光客が回り易いよう一定範囲のエリアに集積させることで、より観光客が集まり観光地としての魅力も高まっているように感じました。

### 観光地化した湯布院と自然を感じる「ゆふいん」

湯布院といえば、ひなびた温泉地ではあるものの、由布院駅から金鱗湖に至る「湯の坪街道」にはキャラクターショップが並び、原宿の竹下通りのような賑わいの方が有名で、多くの若者や外国人観光客が訪れています。

一方で、湯布院には、別府に次ぐ800を超える温泉源があり、ほとんどの家で温泉をお風呂と冬場の暖房用に活用しているとの話で、いかに温泉が地域の生活に欠かせない存在であるかを知る機会にな



りました。

また、多くの観光客が訪れる経済効果の面と渋滞やゴミ問題など地元市民の生活のバランスのとり方も今後の課題であるとも感じました。

### 街並みを活かし若者も楽しめる演出を行う日田

福岡県との県境に近い日田市は、江戸時代には天領として栄えた街で、中心部の豆田町は重要伝統的建造物群地区に指定され、最近、日本遺産にも登録されています。街なかに駐車場が整備され、観光バスで訪れた高齢者グループや若者・カップルのドライブ客が多く訪れ、アジアからの外国人観光客の姿も多く見受けられました。

古い街並みが残るだけでなく、その中にある商店も、店頭を開け放ち観光客向けに新しい商品を紹介したり、クレープやアイスクリームなども店頭で実演販売を行うことで、街なかに動きが生まれ、街歩きを楽しくさせる効果もあり、食べ歩きなどの消費にもつながっています。

造り酒屋では、酒蔵見学コースを設けるとともに試飲コーナーをつくることで、観光客が立ち寄りやすく、またお土産の購入にもつなげる取り組みが見られ、観光消費の拡大につながっています。

### 大分県中小企業診断士会の皆さんと交流

大分市を訪問した際に、大分県中小企業診断士会（甲斐幸丈会長）の皆さん10名と交流会を開催し、それぞれの協会活動の紹介、今後の取組みについて情報交換をさせていただき、今後の福井県協会の活動にも参考になる取組みを伺うことができ、実りのある交流会となりました。



## 企業支援ツールを学ぶ スキルアップ研修会実施

### <会員研修・視察委員会・11月>

会員研修・視察委員会では中小企業診断士としての支援スキル向上を目的に「スキルアップ研修会」を実施しており、令和元年度の第1回目として11月28日に開催しました。

最近ビジネスのスピードが加速し、予測不可能な事態が次々と起こり、今までのやり方だけでは通用なくなって来ています。この事から外部環境に対応し、スピード感を持って自らも変革していく必要に迫られています。このような状況において今回中小企業診断士で(有)グランクレヴ 代表取締役の大西眞由美氏を講師に迎え「ビジネスモデルキャンバスの活用」をテーマに研修を行いました。



この支援ツールは「価値提案」「顧客との関係」「主なリソース」「チャネル」など9つに区切られた表が1枚のシートになっており、企業状況を把握・分析しその結果を各項目に記載。このシートを作成することにより企業の現状確認し、どこが課題で、どのように変えるべきなのか事業戦略を検討する上でのヒントを与えてくれ、新ビジネスを創る際にも試作感覚でアイデアを形にすることができる。

今回の研修会は会員以外の方も参加頂けるオープン例会として開催し、20名が参加。グループに分かれ、演習事例をもとに意見を出し合い、実際にビジネスモデルキャンバスのシート作成を行った。9つの視点から企業を分析する手法を学ぶことができ、このツールを活用することで更に支援の幅が広がる研修会となりました。

## 2019年度上半期 例会開催報告

### <例会・広報委員会>

#### <4月:「観光産業化研究会」「インドネシア視察研修」報告>

4月16日(火)福井商工会議所にて会員19名が参加した。「大野市の観光活性化への提案」と題した50ページを超える提案書を元に、大野市でのフィールドワークだけでなく、複数年に渡る国内視察研修での知見も加えて、萩・津和野地域や飛騨高山地域等の比較や、所属委員個人々の経験に基づく、他地域の土産品を参考にする等、多角的に分析・考察が加えられた。また、インドネシア視察研修報告では、動画を通して、福井県企業進出状況やジャカルタ都心部の開発状況や道路工事期間中の渋滞事情、日本車の圧倒的な人気等が紹介された。



#### <6月:宿泊マネジメントゲーム(以下MG)研修>

6月1日(土)2日(日)、あわら温泉美松にて、擬似的経営を体験できるMG研修を行った。「MQ会計」「絵本を使った経営戦略」講義の後、MGを実施。

1日目例会後、年齢・職業・出身地は全く違っても同じルールで同じ体験をした者同士、MGから経営に関してまで語り合い、親睦を深めた。2日間で合計5期分の企業経営を疑似体験する。1日だけでは「中長期的な戦略による収益確保」という面白さや難しさを体験することはできなかったであろう。つまり、宿泊で十分時間をかけられるからこそ、学びや気づきが大きくなるという事を実感しました。

#### <7月:診断士が知っておくべき“広告のいろは”>

7月18日(木)、福井商工会議所にて、講師に榎真空ラボの虎尾氏・出村氏をお招きし、診断士が支

援先にどのような観点で広告やプロモーションのアドバイスをすべきか、持つべき視点について、貴重な示唆をいただく場となった。

プロモーションにおいて考えるべき「コンセプト」とは「商品とターゲットの間に作り出す新しい価値観」である。そこを明確にしておく、キャッチコピーだけではなくリーフレット・ホームページ等のアートデザインにも統一性が生まれてくる。続いて「クリエイターのトリセツ」として、中小企業診断士がコピーライターやデザイナーと協業する場合、気をつけるべき点についても触れられました。

#### <8月:福井県経済の現状と今後の課題>



8月28日(水)福井商工会議所にて、日本銀行福井事務所小泉所長を講師にお招きしご講演頂いた。

1. 福井県経済の状況：日本銀行の全国企業短期経済観測調査(短観)や福井県の指数調査などをもとに、現状の福井県経済の動向等に関してお話頂きました。2. 今後のポイント：ここでは、世界経済の動向として、米国通商政策の影響・世界貿易量の動向・世界の消費動向・世界の経済成長率の推移と予測について説明頂きました。3. 福井県経済の課題：(1)人手不足対応、(2)非製造業の利益率、(3)観光面の課題について、私見も交えて“福井愛”も感じる熱いお話を頂きました。



“ワンチーム”は一日にして成らず。

ラグビー日本代表は4年間かけてチーム文化を築いてきたとの事。診断士として、これからも理念を胸に一歩一歩着実に進んでいきたいと思えます。